

## 夏に想う

ヨーロッパには様々なフレーバーのソーセージが存在するそうです。7月28日付のピッグ・プログレスニュースを見ていたら、ポークソーセージの話がありました。紹介しているのは北アイルランドにある、5代目ジョージ・マッカートニーと娘達の店です。思わずポールとの関係を検索してしまいましたが、無関係のようです。この店ではなんと洋梨あるいはバナナフレーバーのポークソーセージがヒットしているそうです。いったいどんな味なのでしょう？そしてさらに、今年の夏はなんとコッパーバーグ洋梨ソーダフレーバー・ポークソーセージとジン・トニックフレーバーポーク・ソーセージを発売したそうです。調べたところコッパーバーグとはスウェーデンにある町の名前で、様々な果実が採れる地域です。これらの果実を元にサイダーやシードルを作っていた会社がコッパーバーグ・サイダーでした。これらが欧州全体に流行し、イギリスにも会社ができました。このサイダー会社のヒット商品がコッパーバーグ洋梨ソーダです。このソーダのフレーバーとジューシーさを持ったソーセージとジン・トニックフレーバーのソーセージが売れ筋だそうです。ジン・トニックはある程度予測できますが、洋梨サイダーとはどんな味なのでしょう？ともかく、背景を知っているとスウェーデンの涼しげな光景が浮かび、これを食べてこの夏を乗り切れそうな感じがしますよね。

夏と言えば、ワクチンメーカーの取り扱う疾病は比較的小となしくしています。生産性も良好な成績が得られる時期でもあります。しかし、その一方で疾病対策としては秋に備えなければならない季節です。秋の何に備えるかと言えば朝夕の寒暖差の問題、いわゆる日較差の拡大です。この温度差が豚にストレスを加えることとなります。ストレスと病気の関係は昨年ナバックレター Vol.101 を参照してみてください。ストレスバケツというたとえ話で、寒暖差を含め様々なストレスが原因となって、普段は潜在している様々な疾病を顕在化させる筋書きが説明されています。特に顕在化して問題になる疾病が、豚胸膜肺炎 (AP 感染症) です。昨年は本病と混合感染して症状を増悪させるマイコプラズマ肺炎についてもコントロールをお勧めしました。今回は、AP 感染症を例に、なぜ今からなのかというお話しをします。AP 感染症対策用ワクチンである「日生研豚 AP ワクチン RX」(AP125RX) 及び昨年から新製品として加わった「スワインテクト APX-ME」(APX-ME、後述)、そしてマイコ対策も同時にできる「日生研豚 APM 不活化ワクチン」のいずれも 3~5 週間隔で 2 回注射することで、その 1~2 週間後くらいからその防御効果を発現します。すると、免疫を成立させるためには少なくとも 4 週、できれば 7 週間は見なければならぬと言うことです。10 月初めまでに AP 感染症の好発日齢とされる 90 日齢に間に合わせようとすると遅くとも 9 月第 1 週には注射したいところです。もちろん、農場内からの AP のクリーニングを考えているならばワクチンは周年使用されることをお勧めします。

さて、先に登場しました AP 感染症対策ワクチンの新製品 APX-ME の「ME」は本ワクチンに使用されているアジュバントの一つであるマイクロエマルジョンのことです。実際はマイクロエマルジョンと水酸化アルミニウムゲルアジュバントとのツインアジュバントになっています。マイクロエマルジョンとは、粒子径が 50~200nm の微細なオイル粒子からなり、オイルの量としては 2% 以下です。しかし、免疫細胞に効果的に取り込まれるので、そのオイルエマルジョンの免疫活性化を促す能力は高く、特に細胞性免疫の活性化が期待されます。また、水酸化アルミニウムゲルアジュバントはその抗原の徐放効果と DNA 放出の誘導能により液性免疫が期待されています。これらのアジュバントとともに含有される抗原は AP125RX でも御定評載いています AP が産生する 3 種類の毒素の無毒変異型毒素抗原 (rApx I、rApx II 及び rApx III) と日本国内で最も流行している血清型 3 種 (1、2 及び 5 型) の

菌体抗原の合計6コンポーネントです。従来品以上の有効性が期待でき、その安全性は承認申請時の野外試験及び市販後試験において54施設12万ドース以上の注射事例において、これに起因する異常を認めませんでした。この秋口対策には是非ともAPX-MEをお試しになってはいかがでしょうか。

